

広報 な か わ だ 2020年 10月



第481号

中和田カトリック教会 広報委員会

泉区中田北1丁目9-1 Tel (045)803-6141

2020年10月4日

<http://nakawada-catholic.com>

「コロナ時代」

フランシスコ・ザベリオ 日野 武満 神父

中和田カトリック教会は、近隣が住宅、アパート、マンションに囲まれ信徒が大勢出入りするのを心配していることに配慮して、礼拝、冠婚葬祭等の集まりを縮小して行っていることを大きく書いて掲示板に貼りだしています。

世界史上の例のない感染症がいまだに終止せず、政治、経済に多大の問題を及ぼしています。

四月からの雑誌「文芸春秋」のタイトルは、「新型肺炎、コロナ戦争、ウイルスと日本人、コロナ後の世界、コロナ・サバイバル、コロナ時代の生と死」で、永久保存誌として残しておくつもりです。

9月に敬老祝賀を受けられた方をご紹介します。おめでとうございます！



ペトロ 井上 昭男様 マリア 小野 和江様
マリア・ヴェロニカ 小山 利江様 ノトブルカ 下山 治子様
ドン・ボスコ 滝川 清一様 モニカ 宮本 治子様

教会ごよみ(10月)

日	曜	典 礼 (ミ サ)	備 考	そ の 他
4	日	主日ミサ(9:00)	年間第27主日	<u>第2地区</u> ロザリオ1(8:30)
10	土			教会委員会(10:00)
11	日	主日ミサ(9:00)	年間第28主日	<u>第3地区</u> ロザリオ2(8:30)
17	土			入門講座(14:00)
18	日	主日ミサ(9:00)	年間第29主日	<u>第1地区</u> ロザリオ3(8:30) 世界宣教の日
25	日	主日ミサ(9:00)	年間第30主日	<u>第2地区</u> ロザリオ4(8:30)

※主日ミサとミサ前のロザリオは、10月も該当地区の方のみの参加となります。

※引き続き、マスク着用、検温、消毒など、感染防止事項につきまして、ご協力をお願い致します。

「死者を偲ぶ」ということ

新型コロナウイルス感染症と酷暑の2重の艱難に苦しめられている私たちは、このひと月の間に3名の中和田共同体の方々とお別れをしなければなりませんでした。

帰天された日付順にお名前を挙げさせて頂くと、安西紀成さん（8月18日）、小山恭子さん（9月3日）、七浦鑑吉さん（9月8日）の皆様で、お仲間というよりは、日頃私たちを公私ともに引っ張ってくださっていた方々です。「新たないのちへの旅立ち」とは言え、お別れをしなければならないことは私たち共同体信徒にとって非常に辛いものがあります。

小生は、あまりに急に起きた悲しい出来事なのでそのまま受け入れることが出来ず、改めて『亡くなった方を偲ぶ』とはどういうことなのか」ということを取り留めもなく考えていたら、下に挙げさせて頂いた「心のともしび」に掲載されている3つの投稿が目にとまりました。いずれも高名な聖職者の方々ですが、自分のような信徒にとっても大きなヒントと力を与えてくれました。かなり乱暴かも知れませんが、究極的には「亡くなった方との絆」、「“双方向”のお祈り」に集約できるのでは、と勝手に思っています。

もし宜しかったら皆様と分かち合いたいと考え、上で触れた「心のともしび」の投稿文を、文意を損ねないように原文のまま下に引用（転載）させて頂きました。（投稿の日付順）

これから、追悼の投稿が「広報なかわだ」に多く掲載されると思いますが、それらを起点に皆様とご一緒に3人の方々を偲びたいと思います
(小野 雅彦)

(以下の転載文の出典：<https://tomoshihi.or.jp/radio/>)

(1) 「死者を偲ぶ」シスター渡辺 和子様 (2015-11-03)

17歳の暮れでした。カトリックの洗礼を受けてもいいかと尋ねた私に、母は大反対し、その理由の一つとして、戦争中にバタクさい宗教に入ることはないと言いました。二つ目の反対理由は、宗旨が違ったら、浄土真宗で亡くなった父をはじめ、ご先祖さまへの供養が途絶えるからということでした。

強情な私は、このような母の反対を押し切って洗礼を受けたのですが、カトリックには思っていた以上に、死者を偲ぶ機会が多くありました。時差の関係もあって、毎日、毎時間、世界のどこかでミサがあげられており、ミサの重要な部分には、メメント・モリ（死を覚えよ）という典礼文があるのです。さらに11月は死者の月と定められ、月の初めに、すべての死者を偲ぶ日さえ設けられています。修道院で朝夕唱える「教会の祈り」の中には、必ずといってよいほど、死んだ友人、恩人、会員、親族のための共同祈願もあって、「ああ、私もやがて、こうして偲んでもらえる」という安心感に包まれることがあります。

親不幸をしたあげく、修道院に入った私は、シスターたちといっしょにミサに与り、祈りながら、「お母さま、ご心配なく。ちゃんとお祈りしていますからね」と今は亡き母に語りかけるのです。母も、苦笑しながら喜んでいてくれることでしょう。

近頃あまり言われませんが、私は、煉獄の霊魂のために祈る習慣を、中学・高校時代のシスターから習いました。天国に入る前の浄めの時期にある死者たちは、自分では今や何もできません。この死者たちが、一日も早く浄められて、神のみもとに行けますようにと、私は祈ります。そして、小さい犠牲を捧げること、これが、今の私にとって、死者を偲ぶ大切な部分になっているのです。

(2) 「死者を偲ぶ」 高見 三明 大司教様(2015-11-05)

亡くなる時の状況に応じて、死者の偲び方もさまざまだと思います。たとえば、家族あるいは友人の誰かが急に亡くなった場合、遺族や友人は、毎日、そして、いつまでも故人を偲び続けるでしょう。時間が過ぎても、折にふれ、あるいは少なくとも命日には、死者を偲ばずにはいられないはずで、とくに年若い子どもを病気や事故で亡くした親御さんは忘れることができず、生前生活していた部屋を当時のままにしたりします。

若くして急に亡くなる場合でも、年老いて長い闘病の末に亡くなる場合でも、死者を想う人の気持ちの強さは、生きていたときの故人とのかかわりの深さに比例していると言えます。

人が亡くなると、故人との関係が親密で、深ければ深いほど、まずは、別れの悲しさと辛さを味わいます。わたしが高校生のとき、同級生が病気であつという間に亡くなりました。母親が棺の中のわが子にすがりつく姿を今でも覚えています。亡くなった事実を受け止めると、死んだ人の行く先を案じ、永久に幸せでありますようにと祈るものです。否、きっと天国で幸せになっていると確信したい気持ちになります。

そして、死者について想うことは、その生前の姿、言葉やしぐさ、生き方などです。死者を偲ぶということは、その人の生きていたときのこと、それもどちらかと言えばよい思い出に浸って、幸せに感じることです。それは、死者とのきずなを確かめ、強め、そして、いつまでも共にいたいという気持ちの表れ以外の何ものでもありません。



(3) 「とりなし」 片柳 弘史 神父様 (2018-02-24)

「亡くなったひいお婆さんが、まだ赤ん坊だったあなたをいつも抱っこしていた。どんなことがあっても、あのお婆さんがあなたを守ってくれるでしょう」

幼いころ、母からそう言い聞かされて育った。ひいお婆さんはわたしがまだ1、2歳の頃に死んでしまったので覚えていないが、母の言葉はわたしの心の奥深くに染み込み、子どもの頃のわたしを支えてくれた。「どんなことがあっても、ひいお婆さんが守ってくれるからだいじょうぶ」ということが子どもの頃のわたしを支える信仰だったと言ってもいい。その信仰があったからこそ、いくつもの困難を乗り越え、成長できたのだと思う。

大人になってキリスト教を信じるようになってからは、「どんなときでも、聖母マリアが天国から見守ってくれているからだいじょうぶ」と思うようになった。聖母マリアと、亡くなったひいお婆さんが、並んで天国から見守ってくれているというのが、わたしの素朴な信仰だ。

「目に見えない何かが守ってくれているからだいじょうぶ」という信仰は、わたしたちにとって大きな支えになると思う。現実の世界が八方塞がり、まるで全世界を敵に回してしまったかのように思えるときさえ、天国には自分の味方になってくれる人がいる。そう思えたなら、これほど心強いことはないだろう。

「神様が見守ってくれているから、それだけで十分だ。聖母マリアとか先祖などは必要ない」という人もいるが、やはり身近な誰かが神様とのあいだにいてくれると思ったほうが安心だ。目には見えないけれど、どんなときでもわたしたちを見守り、わたしたちのために祈ってくれている人たちがいる。そのことを信じたい。

委員会だより (文中敬称略)

<9月教会委員会> (9月12日(土) 18名出席)

■日野神父様のお話

- ・暑さが続いています。新型コロナ感染症も続いています。教会は3か月間、地区別のミサを行っています。ワクチンが1日も早くできるように祈っています。

1. 建設委員会報告(岩淵建設委員長)

- ・9月15日に業者と費用面で打ち合わせして、建設業者を決定します。司教顧問会で工事業者が承認されれば、10月に契約、一部工事開始し来年の3月の竣工を目指しています。工事は聖堂以外から始めて、聖堂は最後になります。聖堂工事中は、ミサはホワイエを使います。
- ・当面の準備作業としては、荷物の仕分け、仮置き、片付けがあり、担当のリーダー2人(井上、楠田)と岩淵で合議して進めます。作業の実施はリーダーに任せるのではなく、皆さんの協力をお願い致します。

3. 新型コロナ対応

1. 近隣教会・自治体の動向概要(資料参照)
2. 10月～年末までの対応方針
→近隣教会の動向やコロナの感染状況を鑑みて、10月迄は地区別ミサを継続する。

4. 本年度中の典礼・行事について

1. 「敬老祝福」は、9月13日に3名の該当者、9月20日に2名の方に神父様にお祝いをわたしていただく。
2. ロザリオ月については、各地区ミサの前に8:30から、3連唱えることにする。
3. 七五三祝賀は、11月15日(日)ミサ中に行う。該当者は、貼り紙で案内する。
4. クリスマスミサは、状況にもよるが12月24日、12月25日ともに、地区別制限をかけない方向で継続検討。
5. ゆるしの秘跡は、後日、日を設けて実施する。
6. バザーについては、バザーそのものは中止するが、バザー特別献金は是非実施したい。

5. 財務報告(8月度)(小野(和))

- ・一般会計、建設会計、愛の献金の会計報告が行われた。
- ・新型コロナ関係の除菌、感染防止のための消耗品費が増えた。
- ・建設月定献金については、過去3年間をみると、

納入口数が漸減していることに留意が必要。

6. 新たな行動

1. 中和田教会の一層の活性化に向けて、10月から、活性化の検討チームを立ち上げて話し合う。

7. 今後の検討課題

1. 2021年度予算策定については、10月10日に教会委員会で原案の審議→承認→修正を経て教区提出(財務作成)。
2. 教会委員改選は、各Gで相談していただく。教会委員長も立候補、推薦をしていただく。

8. その他

(福祉G)

- ・いつも福祉の為に協力くださり、ありがとうございます。引き続きホームレス支援の為のお米、ふりかけ、梅干しなどのご寄付をお願いします。

<次回委員会 10月10日>

以上

教会からのお知らせ

■帰天

ナタナエル 安西 紀成様

(享年 79才)

8月18日に帰天されました。

アグネス 小山 恭子様

(享年 82才)

9月3日に帰天されました。

ステファノ 七浦 鑑吉様

(享年 85才)

9月8日に帰天されました。

アウグスティノ 長山 武一神父様

(享年79才)

8月20日に帰天されました。

(※長山武一神父様は、中和田教会信徒の太田清子様のお実兄であられる方で、長年ブラジルで宣教に御尽力されました)

謹んで哀悼の意を表します。

(総務グループ)